



## 脳腫瘍

(のうしゅよう)



※内容を簡素に記載しております。詳しくはHPをご覧ください。

### 脳腫瘍について

脳腫瘍は脳の細胞や神経・脳を包む膜から発生する原発性脳腫瘍と、肺がんや乳がんなどが脳に転移する転移性脳腫瘍と大きく2つに分けられます。原発性脳腫瘍は、さらに良性の脳腫瘍と悪性の腫瘍に分類されます。脳腫瘍は悪性度（グレード）が1から4（ローマ数字のI/II/III/IVを使うことが多い）までに分類されています。良性腫瘍のほとんどは悪性度（グレード）が1で、代表的なものとして髄膜腫（ずいまくしゅ）・下垂体腺腫（かすいたいせんしゅ）・神経鞘腫（しんけいしょうしゅ）があります。これらの良性脳腫瘍のほとんどは手術ですべて摘出すれば再発はまれですが、わずかな残存組織から腫瘍が再発することがあります。

### 症状について

腫瘍が大きくなると頭蓋内の圧力が上がり、頭痛や吐き気、まひ、歩行障害、しびれ、ふらつきなどの症状がでてきます。これらの症状に気が付いたらすぐに医療機関を受診してください。

### 診断について

CTやMRI、PETなどでの画像診断と診察や他の検査結果をあわせて、腫瘍の種類や病期を鑑別し、診断を行います。

脳腫瘍は細かく分類すると150種類にもわたるため、最終的には手術を行わないと診断ができません。手術中に行われる病理迅速診断によって、病理診断だけでいいのか、できるだけ摘出したほうがいいのかの手術方針が変わります。したがって、手術をうける施設に術中診断を行ってくれる病理医がいるかどうかがとても大切です。

### 治療について

外科手術、放射線や薬物療法などを組み合わせて治療を行います。脳腫瘍の手術で最も重要なことは、腫瘍がどのようなものか病理診断を行うこと、さらにこれまで通りに話したり、考えたり、歩くことができるように、脳の機能を温存しながらできるだけ腫瘍を取り除くことです。病理診断が確定すると、それにあわせて、放射線治療や化学療法を行います。腫瘍の種類によって、薬の種類や投与期間も異なります。治療を受けるときには、自分の腫瘍が病理学的に、あるいは画像検査からどういう腫瘍が疑われるのかを知っておくことが大切です。

